

1. 事業報告

文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラムに採択されました」

本学産学官連携本部は、新たな産業創出に挑戦するべく、福井県、日本原子力研究開発機構と共同で、文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」が申請し、このたび採択となりました。超小型の光制御技術の研究結果を「コア技術」とし、地域の有する研究・開発・事業化のための様々なリソースを結集して、本プロジェクトを進めていく予定です。

【申請内容】

「ワンチップ光制御デバイスによる革新的オプト産業の創出」

【実施主体】

福井大学、日本原子力研究開発機構、福井県産学官金連携により、コア技術を確実に事業化へと結びつける活動の中から、地域における持続的なイノベーション創出や、グローバル市場を意識した展開の実績を積み、そのサイクルの定着による新しい地方創生への取り組みを推進してまいります。



(記者会見の様子)

2. 事業報告

ニオイ分析講座を開催しました。

2017年8月1日(火) 15:00~16:30に、ふくい産学官共同研究拠点3階会議室にて『ニオイ分析

講座』を開催しました。

本講座は、「ニオイ分析への挑戦 ～ニオイ分析に置く複合臭の評価とセンサー方式の有用性～」と題して、喜多純一氏(株式会社島津製作所)にご講演をいただきました。

最初に、複合臭についてご説明いただいた後、におい識別装置(FF-2020Sシステム)の原理や解析方法をご説明いただきました。最後に質疑応答や名刺交換が行われ、受講者により理解を深めていただきました。

3. 事業報告

新技術説明会を開催しました

2017年8月29日(火)、JST東京本部別館にて『新技術説明会』を開催いたしました。本説明会は、大学の研究者が特許や研究成果を企業関係者に向けて発表をし、実用化させることを目的として、毎年行っております。

今年度は工学系3名、医学系4名の研究者が自身の所有する特許についてプレゼンを行いました。発表後には、名刺交換や面談を行い、交流しております。発表内容は以下の通りです。

『フッ素含有表面層を有するポリカーボネート樹脂基材』(産学官連携本部 本部長 米沢晋)

『伸縮性のあるゲルの不織布』(学術研究院工学系部門 繊維先端工学講座 特命助教 浅井華子)

『多様な樹脂との相溶性に優れた耐熱性を有する高分子紫外線吸収剤』(学術研究院工学系部門 材料開発工学講座 准教授 阪口壽一)

『全身麻酔にて至適量の鎮静薬を投与する自動調整システムの開発』(学術研究院医学系部門 医学領域麻酔・蘇生学分野 教授 重見研司)

『脳機能画像の動的位相変動を用いた神経ネットワーク機能評価法』(福井大学保健管理センター 准教授 高橋哲也)

『生体膜を模倣した安定な人工脂質二十膜の作成』(学術研究院医学系部門 医学領域分子生理学分

野 教授 老木成稔)

『胎児の健康状態の早期診断を支援する新しい分娩監視装置』(学術研究院医学系部門 医学領域産科婦人科学分野 客員教授 荒木睦大)



(説明会の様子)

4. 事業報告

先端材料・技術入門講座を開催しました

2017年8月4日(金) 13:30~16:30に、本学産学官連携本部3階研修室にて『先端材料・技術入門講座 ~複合材料開発~』を開催しました。本講座は、炭素繊維強化プラスチック(CFRP)を代表とする複合材料の技術開発や研究動向を知っていただくことを目的としております。

始めに『熱可塑性コンポジットの開発動向 ~K展2016を中心に~』と題して、山根正睦(本学産学官連携本部 特命准教授)が講演いたしました。最初に熱可塑性コンポジットを説明し、その後、世界最大のゴム・ガラスの展示会であるK展2016の様子をお話いたしました。また海外の企業や大学・研究機関の技術の紹介もしております。最後に、同氏の熱可塑性コンポジットに対する思いや、最近の研究内容、最もやりたいことなどを、述べております。

本講座の後半では、『熱可塑性コンポジットの研究動向 ~短繊維を中心に~』と題して、植松英之氏(本学工学部工学研究科 講師)にご講演をいただきました。

参加者には最新複合材料の開発・研究動向について、より深く知っていただきました。



(講習会の様子)

5. 事業報告

JST フェア 2017に出展しました

2017年8月31日、9月1日に、東京ビッグサイトにて開催されたJST フェア 2017に、本学より『リチウムイオン電池との組合せを考慮したSiC利用回路の応用展開』を出展しました。

当日は、沢山の来場者に訪れていただき、技術交流が活発に行われました。



(展示ブース)

【今後の予定】

テクノフェア 2017

日時：10月26,27日

会場：福井県立産業会館

本学のILF試作開発事業、実践教育プログラム(MOT)、各種プロジェクトなどの取り組みについて紹介いたします。

(平成29年10月2日発行)